

礼文島におけるオオセグロカモメ *Larus schistisagus* × ワシカモメ *L. glaucescens* 交雑繁殖つがいの観察記録

風間健太郎¹⁾²⁾・風間麻未¹⁾²⁾

¹⁾ 〒 041-8611 北海道函館市港町 3-1-1 北海道大学水産科学院

²⁾ 〒 359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島 2-579-15 早稲田大学人間科学学術院

Observation Record of a Hybridization Breeding Pair of Slaty-backed Gull *Larus schistisagus* and Glaucous-winged Gull *L. glaucescens* at Rebun Island

Kentaro KAZAMA¹⁾²⁾ and Mami T KAZAMA¹⁾²⁾

¹⁾Graduate School of Fisheries Sciences, Hokkaido University, 3-1-1 Minato-cho, Hakodate, Hokkaido, 041-8611 Japan

²⁾Faculty of Human Sciences, Waseda University, 2-579-15 Mikajima, Tokorozawa, Saitama, 359-1192 Japan

Abstract. A hybridization breeding pair of Slaty-backed Gull *Larus schistisagus* and Glaucous-winged Gull *L. glaucescens* was observed at Kafuka, Rebun Island, on 12 July 2018.

北海道礼文島において2018年7月12日にオオセグロカモメ *Larus schistisagus* とワシカモメ *L. glaucescens* の交雑繁殖つがいを観察した。ワシカモメの国内繁殖事例はこれまで数例報告があるものの（全てオオセグロカモメとの交雑繁殖として報告；小杉, 2003, 風間ら, 2011), いまだ観察事例は少ない。また, 情報不足から両種の分布重複域でどの程度交雑繁殖が生じているのかは不明な点が多いため (Olsen & Larsson, 2003), 今回ここに報告する。

観察地は礼文町香深村キトウス付近の海岸線から陸続きの岩礁（高さ8mほど）であった。この岩礁にはオオセグロカモメの巣が30巣ほどあった。観察日11:30頃, そのうち1巣において羽色が異なる1羽の大型カモメ成鳥が観察された（図1A）。巣には2羽の雛がいた（図1A）。この成鳥個体は, 付近のオオセグロカモメと比較して背の灰黒色が薄いこと, 初列風切の先の色が淡いことからワシカモメであると同定された (Olsen & Larsson, 2003; 氏原・氏原, 2010)。

発見後観察を続けたところ, 同日13:30頃にワシカモメの巣に別のカモメ成鳥1羽が飛来した（図1B）。飛来した個体はワシカモメよりも大型であった。飛来個体は背の濃い灰黒色や風切羽先端の黒色からオオセグロカモメと同定された (Olsen & Larsson, 2003; 氏原・氏原, 2010)。このオオセグロカモメは, ワシカモメおよびその雛と体を接触させながら, 隣接する巣のオオセグロカモメに対して嘴を開くなどの威嚇行動を繰り返した（図1B）。これらの行動から, 飛来したオオセグロカモメはワシカモメのつがい相手であると判断された。この交雑つがいは観察を終えた同日14:00頃まで同一の巣に滞在した。

オオセグロカモメとワシカモメの交雑つがいは, これまでカムチャツカ北部と東部, コマンダー諸島沿岸において報告があるほか (Olsen & Larsson, 2003), 国内においては礼文島において小杉 (2003) が1つがいを, 利尻島において風間ら (2011) が2つがいを報告している。国内におけるワシカモメの繁殖事例も交雑つがいとして報告

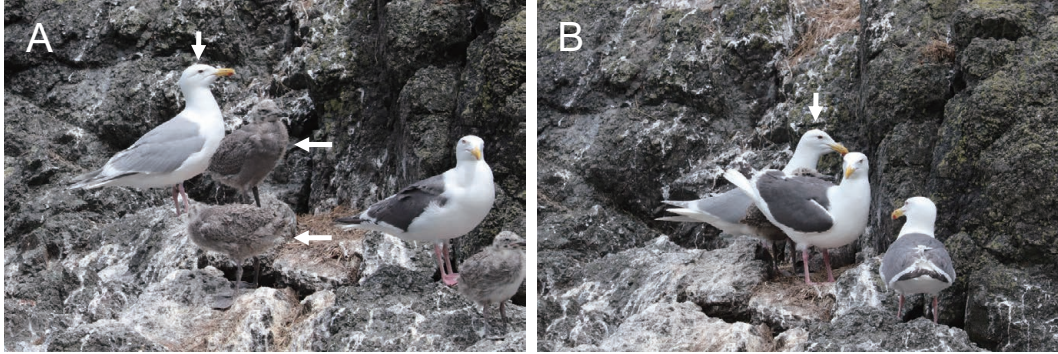


図1. 礼文町香深村で2018年7月12日に観察されたオオセグロカモメとワシカモメ交雑つがい。A) 2羽の雛（水平矢印）と巣に滞在するワシカモメ（垂直矢印）。B) ワシカモメ（垂直矢印）および雛2羽とともに巣に滞在するオオセグロカモメ。風間麻未撮影。
 Fig 1. Hybridization breeding pair of Slaty-backed Gull and Glaucous-winged Gull observed in Kafuka, Rebuton town on 12 July 2018. A) Adult Glaucous-winged Gull (vertical arrow) and its two chicks (horizontal arrows) on the nest. B) Slaty-backed Gull staying at the nest together with Glaucous-winged Gull (vertical arrow) and those chicks. Photo by Mami T Kazama.

された上記3例のみである。

今回交雑つがいが観察された場所は、小杉(2003)の報告と同一である。大型カモメ類は野外において20年以上生存することが確認されている(Reid, 1988)。そのため、今回観察された交雑つがいは小杉が2003年に観察したつがいと同一である可能性は否定できないが、その詳細は明らかではない。

謝辞

本調査は環境省環境総合研究推進費「(4-1803) 洋上風力発電所の建設から主要な海鳥繁殖地を守るセンシティブリティマップの開発(代表:関島恒夫)」にかかる野外調査の一環として実施された。

引用文献

- 風間 健太郎・平田和彦・佐藤雅彦, 2011. 利尻島におけるオオセグロカモメ×ワシカモメ交雑繁殖つがいの観察記録. 日本鳥学会誌, 60: 241-245.
- 小杉和樹, 2003. 標識カモメ類のこと. 日本野鳥の会道北支部通信オロロン, 27: 1.
- Olsen, K. M. & H. Larsson, 2003. Gulls of Europe, Asia and North America. Christopher Helm Publishers Ltd., New Jersey. 608pp.
- Reid, W. V., 1988. Age-specific patterns of reproduction in the Glaucous-winged gull: increased effort with age. *Ecology*, 69: 1454-1465.
- 氏原巨雄・氏原道昭, 2010. カモメ識別ハンドブック改訂版. 文一総合出版. 東京. 80pp.